

# こんにちは 理事会です

No.9



本当にいつまでも暑い夏が続きましたね。

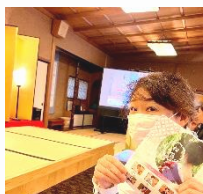
「夏のお疲れ出ていませんか？気をつけて後半もよろしくお願ひします」と10月7日に理事会&運営会議を行いました。早いもので様々評価をしながら次年度の事も視野に入れていく時期になりました。その中で、会員増強取り組みにも力を入れてきたけれど、コロナ生活の影響無しとは言い切れない状況で未だ会員数は150人に満たない現状。予算は155人で組んでいます。財源確保のための策も手掛けているものの…。運営面に頭を悩ませております。

前理事会からバトンを受け「他人ごとにはせず皆で岩手県連盟を盛り上げよう！」との願ひで3つの新しい取り組みを主軸にやってみております。①団担当理事配置 ②賛助会員推薦 ③サポート団 今回は③についてふりかえってみます。担当委員不足から始めたことでしたが、各団の支援姿勢には感謝していますし皆で事業に携わっている感がありました。それを踏まえて次年度は、連盟事業の在り方を検討していく必要があると考えています。例えば、他団体イベントへの参加型や各団の特徴ある集いを合同で開催する等。メリットとしては、リーダー方のスキルアップやご父兄協力を得ながら団内外の体制強化、スカウトの教育プログラム内容の充実やガールスカウトの認知度アップが見込めるのでは？と…。今後また皆様のアイデアやアドバイスを頂きたいと思っていますので、ご協力お願いします。

## 2023地区成人研修会inあきた 『秋田アトリオン』秋田県中央男女共同参画センター/あきた文化産業施設『松下』

本年度は秋田県連盟が担当して下さり10/21~22冷たい雨が降ったり、カラッと秋晴れだったりの2日間、岩手県では盛岡マラソン、日連ではガールズメッセということで、菊地トレーナーと2人参加しました。心の中には「次年度の岩手県連盟は？」との悩みを抱え、移動中も食事中も2人でブツブツ…。『何かヒント得たいなあ！』という視点だったからか、講師からの学びの中の言葉や、久しぶりに会うスカウト姉妹の言葉がとても心に響きました。

＜「あきた舞妓」の地域貢献＞と題して、数年前に設立された“株式会社せん”の秋田県出身の松岡さんという若い女性のお話で、昔栄えていた「あきた舞妓」復活させたお話をうかがいました。実践では「あきた舞妓」のお茶席を体験！



メモ

- ・「秋田美人」という有名な言葉を産業化
- ・「あきた舞妓」を復活させ生き残るためには
- ・ダーウィンの生き残る種とは最も強いものではない
- ・～唯一生き残ることが出来るのは変化に対応できる者～
- ・今あるものを磨いて活かす
- ・ボランティアだけが地域貢献ではない、お金を生み出すことも



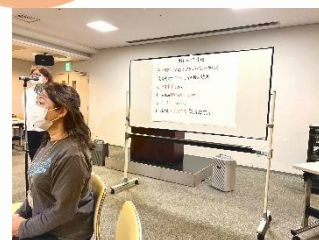
## ＜新しい防災のススメ～地域住民参加型のアウトドア防災～＞

日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科講師の及川氏は、3.11での体験談や夏の水害のお話などから365日防災をと！



メモ

- ・自分事にならないと「備え」に繋がらない
- ・避難訓練や消防団など「必要」と言っても自分が関わることはNG
- ・明日を迎えるために忍ぶのではない、どんな時もいつもと変わらない必要性
- ・「どうやったら？」と色々考えるための視点を変化



## ＜スカウト姉妹のつづき＞

- ・孫、娘、私、同じ土俵で楽しめる幸せ
- ・年代も地域も生活習慣もみんな違うのに志一緒の仲間がいる
- ・一生涯の居場所 など